

エルンスト・ルビッチ

Ernst Lubitsch

生年月日 1892/01/28

出身地 ドイツ／ベルリン

没年 1947/11/30

【バイオグラフィ】

■役者に興味を持ち、人気喜劇俳優ヴィクトル・アルノルドに弟子入りし、数々の舞台に立つようになる。12年に劇団の座長が演出した映画に出演したのがきっかけで、映画に傾倒。喜劇俳優として映画界入りを果たした。14年に短編コメディの演出を任せられ、以後は監督としても活躍する。18年に「呪の眼」で長編デビュー、以後「ニノチカ」「生きるべきか死ぬべきか」など非常に洗練されたシチュエーション・コメディの傑作を数多く残した。そのエレガントで洒落な映像表現は“ルビッチ・タッチ”と呼ばれ、後の映画人にとっての、決して到達することのできない究極の目標となっている。他に「結婚哲学」、「ラヴ・パレイド」、「メリィ・ウイドウ」「極楽特急」、「天使」などがある。47年に心臓発作で死亡した。

【フィルモグラフィ】

| | |
|-----------------------|---------|
| 婚約者の友人 (2016) | オリジナル脚本 |
| あのアーミン毛皮の貴婦人 (1948) | 監督, 製作 |
| 小間使 (1946) | 監督, 製作 |
| ロイヤル・スキャンダル (1945) | 監督, 製作 |
| 天国は待ってくれる (1943) | 監督, 製作 |
| 生きるべきか死ぬべきか (1942) | 監督 |
| 淑女超特急 (1941) | 監督, 製作 |
| 桃色 (ピンク) の店 (1940) | 監督, 製作 |
| ニノチカ (1939) | 監督, 製作 |
| 青髭八人目の妻 (1938) | 監督, 製作 |
| 天使 (1937) | 監督, 製作 |
| 真珠の頸飾 (1936) | 製作 |
| メリィ・ウイドウ (1934) | 監督 |
| 生活の設計 (1933) | 監督 |
| 君とひととき (1932) | 監督, 製作 |
| 百萬圓貰ったら (1932) | 監督, 脚本 |
| 極楽特急 (1932) | 監督 |
| 私の殺した男 (1932) | 監督 |
| 陽気な中尉さん (1931) | 監督 |
| モンテ・カルロ (1930) | 監督, 製作 |
| パラマウント・オン・パレイド (1930) | 監督 |
| 山の王者 (1929) | 監督 |
| ラヴ・パレイド (1929) | 監督 |
| 思ひ出 (1927) | 監督 |
| 陽気な巴里っ子 (1926) | 監督 |

| | |
|---------------------|--------------|
| 当世女大学 (1925) | 監督 |
| ウィンダムア夫人の扇 (1925) | 監督 |
| 三人の女性 (1924) | 監督 |
| 禁断の楽園 (1924) | 監督 |
| 結婚哲学 (1924) | 監督 |
| ロジタ (1923) | 監督 |
| 灼熱の情炎 (1922) | 監督 |
| ファラオの恋 (1922) | 監督 |
| 山猫リュシュカ (1921) | 監督, 原作, 脚本 |
| 白黒姉妹 (1920) | 監督, 脚本 |
| 田舎ロメオとジュリエット (1920) | 監督 |
| 寵姫ズムルン (1920) | 監督, 脚本 |
| デセプション (1920) | 監督 |
| 花嫁人形 (1919) | 監督, 脚本 |
| 花聲探し (1919) | 監督 |
| パッション (1919) | 監督 |
| 牡蠣の王女 (1919) | 監督, 脚本 |
| 呪の眼 (1918) | 監督 |
| 舞踏の花形 (1918) | 監督 |
| 男になったら (1918) | 監督, 脚本 |
| カルメン (1918) | 監督 |
| 出世靴屋 (1916) | 監督, 出演 : サリー |